

みなさん、こんにちは 中村です。今朝、通勤途中セミが鳴いているのを聞いて夏を感じました。お元気でご活躍のことと思います。U-22 4カ国トーナメント2007中国・瀋陽。参加国は日本、中国、北朝鮮、ボツワナ。北京五輪のテスト大会となる、総当り戦で今夜6時から初戦の相手は北朝鮮代表と。北朝鮮とは昨年アジア大会で敗れて以来の対戦となる。リベンジマッチを前に選手たちは燃えているが、ボールと人が動く日本らしいサッカーで勝ち点3を取って欲しいですね。梅崎、安田、李、森島みんな個性を發揮した、名付けて「我がままシュート」で決めて下さい。



## ～法務大臣による裁判外紛争解決手続の 認証制度が4月1日より施行されました～

裁判外紛争解決手続とは、法的なトラブルについて裁判以外の方法で解決を図る方法一般を指す言葉です。主なものとして仲裁、調停、あっせんなどがあります。近年様々なトラブルが生じるようになり、トラブル内容や当事者の事情に応じたいろいろな解決方法が求められるようになってきています。このようなことから、裁判の充実に加えて、トラブルの実情に合った解決に導くものとして、裁判以外の様々な解決方法が提供されるよう望まれ、司法制度改革の一環として、平成16年に制定され、今年4月から施行されました。

裁判外紛争解決手続の特長として、

- ① プライバシー等に配慮し、手続の状況や内容を公開せずに解決を図ることができる。
- ② トラブルの実情に即して、あるいは当事者の事情を踏まえて柔軟な解決を図ったり、簡易迅速に手続を進めたりすることもできます。
- ③ トラブルの分野に応じた専門家の知識経験を活かしたきめ細やかな解決を図ることができる。

といったことが挙げられます。

裁判外紛争解決手続のうち、調停、あっせん等の業務を行う民間団体等は、申請に基づき、その業務が法律の定める基準・要件を満たしているかどうかを審査し、満たしている場合に法務大臣の認証を受けることができます。法務大臣の認証を受けた業務には、時効中断効等の法律上の特例が認められていますので、トラブル解決方法としてこれまでよりも利用しやすくなります。このように認証を受けたトラブル解決の手続きが身近な存在となるよう「かいけつサポート」という愛称がつけられ、法務大臣から認証を受けた「かいけつサポート」に関する情報（民間団体等の名称や住所、電話番号、取り扱うトラブルの種類、必要となる費用、トラブル解決の依頼の仕方や手続の進め方など）は法務省のホームページで公表されています。

「かいけつサポート」は、当事者が話し合いによって解決することができる民事のトラブル、例えば、金銭の貸し借りをめぐるトラブル、土地の所有権の範囲に関するトラブルなどが取り扱われますので、このようなトラブルを裁判以外方法での解決したい場合には選択肢の一つとして検討してはいかがでしょうか。

法務省ホームページ <http://www.moj.go.jp/>

(島根)

### 建設設業許可 Q&A

Q. 専任技術者、主任技術者、監理技術者について教えてほしいのですが？

A. ①専任技術者

建設業許可要件の1つとして、許可を受けようとする営業所ごとに置かなければいけない技術者のことで、その営業所に常勤して専らその業務に従事する者をいいます。

②主任技術者

建設工事を施工する場合に、その工事現場に必ず置かなければいけない技術者のことで、一般建設業の専任技術者と同じ資格要件を満たしている者をいいます。

③監理技術者

特定建設業者が発注者から直接請け負った工事で、工事の下請契約の請負代金が合計 3,000 万円以上(建築一式は 4,500 万円以上)になる場合に工事現場に置かなければいけない技術者のことで、特定建設業の専任技術者と同じ資格要件を満たしている者をいいます。(山中)

### 花火の歴史

花火の歴史は古く、200年頃中国でのろしとして使われた火薬がその原点となっています。しかし、観賞用としての花火が作成されたのは、1400年頃のヨーロッパでの事でした。

日本の花火は世界的に有名ですが、なぜこんなにも花火の技術が向上したのでしょうか？それは花火を鑑賞するときに叫ぶ言葉「玉屋」「鍵屋」が関係してきます。

1659年、鍵屋弥兵衛という人物が江戸に現われ、花火を製造し始めました。花火は商人達の間でブームになり、花火の文化が江戸に広がりました。そして将軍吉宗が両国川開きを行います。これは疫死病者の慰霊と悪霊退散祈願の為にいった花火大会です。

その後、1808年に鍵屋にいた腕の良い花火師、清七が鍵屋から暖簾分けをしてもらい玉屋を立ち上げ、玉屋市弥兵衛を名乗りました。しかし玉屋は事故で全焼してしまい、江戸を追放され一代限りで消滅してしまいました。

明治時代になると彩色光剤が輸入されるようになり、現在のような色とりどりの花火を見ることが出来るようになりました。(松本)